令　和　６　年　度　事　業　報　告　書

（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

事業の状況

令和６年度の事業は全体として例年通りの内容で開催することができた。連合書道展では席上揮毫を再開し、観覧者の増加を図ったが、出品数の減少に歯止めがかかることはなく、収入減は続いている。なお一層の収支の改革が必要である。平安書道研究会の入学者はほぼ予定通り確保することができた。今後は多くの卒業生に特待生として残ってもらうための方策が必要である。

１．書道文化の普及（第４号事業関係）

(1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

１．平安書道研究会（主催：一般社団法人書芸文化院）令和６年５月～令和７年４月
毎月１回､第 890 回～第 901 回を実施した｡各回テーマに沿った古筆を 5～6 点ずつ露出展示。

２．第 63 回現代かな書道専門講座（主催：かな書道作家協会）令和６年４月 29 日
伝源順筆「栂尾切」、伝藤原行成筆「亀山切」、など５点の貸し出し。

３．第 40 回読売書法展　特別展示「名品でたどる文字文化、書の歴史」　令和６年８月 23 日～９月１日（読売書法会主催）に伝紀貫之筆「高野切第一種」、伝西行筆「小色紙」の２点を貸し出し。

４．筆の里工房開館 30 周年記念「定家様が伝えた文化―そうだったのか藤原定家さん―」
令和６年９月 14 日～11 月４日（筆の里工房主催）に藤原定家筆「歌合切」、伝西行筆「橘為仲集切」など合計 10 点を貸し出し。

(2) 写真の掲載許諾

１．(有)書芸文化新社発行の『古筆カレンダー2025 年』に伝紀貫之筆「高野切第一種」、伝小野道風筆「紺紙金銀交書法華経」、など５点のカラー掲載を許諾。
同じく「顔真卿の書法」（原田凍谷著 2021 刊行）の再版にあたり、顔氏家廟碑、顔勤礼碑、自書告身帖の３点を掲載許諾。

２．一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術 2025 年 1～12 月号』の表紙写真として「三代彝器文字拓本」及び『みんなの書 2025 年 1～12 月号』の表紙写真として、本阿弥光悦筆「色紙」を許諾。

３．一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術 2025 年 12 月号』の口絵として伝藤原公任筆「太田切」、伝藤原公任筆「荒木切」など５点の掲載を許諾。

４．書道芸術院　会員用教則本に伝紀貫之筆「高野切第一種」、「高野切第二種」、伝藤原行成筆「針切」の３点を掲載許諾。

５．ＮＨＫエンタープライズ旅番組「エエトコ」(2009 年６月６日放送)「美の壺」より「源氏物語梅枝」映像の２次使用を許諾。

6．教育図書発行の教科書・書１（令和８年発行）に飯島春敬書「ゆき（草野心平)」、伝空海筆「隅寺心経」、伝藤原佐理筆「綾地歌切」、西本願寺三十六人集「伊勢集」の４点を掲載許諾。

7．正筆会競書誌『正筆』（令和６年８月１日発行）に「石山切（貫之集下)」と「石山切（伊勢集)」を掲載許諾。同じく『正筆』（令和６年 11 月１日発行）に「小島切」、「柏木切」、「昭和切」の部分を「平安の書の美」図録より複写転載を許諾。

8．東京書籍発行の教科書『書道Ⅱ』（令和９年度高等学校教科書）に藤原佐理筆「国申文帖」、西本願寺三十六人集　石山切（貫之集下)、伝藤原行成筆「関戸本古今集切」の３点を掲載許諾。

9．故宮博物院有限公司発行の張瑞図書法全集に張瑞図筆「草書五言律詩軸」を掲載許諾。

10. 韓国 Seoul National University Press 発行の『日本美術の歴史』韓国語版に藤原佐理筆「国申文帖」の部分使用を許諾。

２．書道に関する展覧会の開催（第５号事業関係）

(1)「第 75 回連合書道展」、「第 38 回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第 75 回連合書道展」を令和６年９月１日より８日まで東京都美術館において開催した。参加団体は 12 団体。総出品点数は 407 点（前回 409 点)。

観客入場者数 3906 名(前回 3505 名)であった。今年度から席上揮毫を再開した。

また、特別企画として、「第 38 回関東女流書展」を開催した。関東地方で活躍する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に 178 点（前回 183 点）の出品があった。

連合書道展の一環として行っている平安書道研究会受講生による第６回「臨書コーナー」は 20 点（前回 18 点）の出品があり、令和６年度が第４回となる「学生部展」は 21 点（前回 25 点）の出品となった。

３．書道専攻者の養成（第７号事業関係）

(1) 平安書道研究会の開催

昭和 25 年から、毎月１回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を開催。令和６年度は、令和６年５月（890 回）から令和７年４月（901 回）まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館などで開催した。毎回 130 名を超す熱心な参加者を得ている。期末テスト・卒業レポートなどで学生のレベルの向上が見られるのは喜ばしいことである。

「臨書実技講座」は令和６年９月 22 日に松井玉箏先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の３名の講師により、受講生 21 名で実施。課題は「関戸本古今集」と「高野切第二種」とした。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることが出来、毎回好評である。

令和３年５月に入学した第 65 期生 13 名が令和６年５月に３か年の全課程を終えて卒業した。令和６年度の第 68 期入学生は 30 名であった。講師の先生方や正会員の先生方の積極的なご支

援により多くの入学者を迎えることが出来た。

４．その他

(1) ホームページの充実

ホームページの認知度も上がり、受講生からの反応も目立つようになった。今後も内容の充実を図り、受講生のみならず一般への重要なＰＲ用ツールとして活用していきたい。

令和７年１月に本院ホームページ上で長らく工事中としてきた「春敬記念書道文庫」のページに 12 点の古筆の写真と解説を掲載し、ホームページの内容を充実させた。

ＵＲＬは　http://shogeibunkain.jp/　である

(2) 講師の先生を囲む会の開催

令和７年２月９日開催の平安書道研究会終了後、東京都美術館のレストランに於いて、恒例の「講師の先生を囲む会」を開催した。客員講師と臨書指導講師及び理事、正会員の総勢 61 名の方々(内受講生 47 名)が集い、熱心な意見交換も含め和気あいあいのうちに２時間はあっという間に過ぎた。受講生からも普段なかなか話が出来ない講師の先生方と交流が出来て、とても楽しかったという感想が多く聞かれた。

以上